

令和6年度

自己評価書(後期)

南アルプス市立芦安中学校

芦安中学校 自己評価書(後期)

令和7年2月4日(火)

南アルプス市立芦安中学校

1 自己評価(前期)の経過

(1)後期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施(12月)

(2)アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議(1月)

※小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と課題点

(1) 学校経営・学校運営に関わって

前期と比べると、生徒理解を深め、生徒に寄り添った指導や声掛けをする意識が高まっているようです。この意識は今後も持ち続けたいです。また、生徒によって達成状況は違いますが、人と関わる力や行動力等は確実に育っていると思います。特に、小学生との合同活動は、生徒の自主性や思いやり等を育てる上で効果的な活動です。もちろん、教職員側の見通しをもった支援や声掛けが必要ですが、運動会や白峰祭の取組での指導の成果を今後に生かしていきたいです。

今後の課題は、教員相互の信頼関係を深めることや、危機管理意識を高めた教育活動を実施することが挙げられます。そのために、生徒や家庭の情報(家庭からの連絡等)を全体で共有することが大切です。情報共有(報告・連絡・相談)を確実にしていきましょう。また、教職員の生徒への言動について、適切な声掛けや効果的な指導ができていないことを指摘する意見もあります。このような意見を真摯に受け止め、対応していくことが生徒や保護者との信頼関係を深めていくことにつながると思います。

(2) 学習指導に関わって

基礎基本の定着やICT活用については、先生方も意識的に取り組んでいただいているようで、ありがたいです。デジタルアプリのeライブラリーに関しては、南アルプス市で補償金を支払って活用しているものです。朝学や家庭学習等でも効果的に活用しましょう。(使用頻度が下がると、その予算にも影響してしまいます…)

課題点としては、適切なめあての設定とふりかえり、言語活動の充実(話し合い活動・発表等)が挙げられます。このことは、生徒主体の授業の実現にもつながります。また、教職員と生徒・保護者の間で、意見のずれも見られます。「基礎基本の定着」「個に応じた支援・指導」も、「生徒主体の授業」も、最終的には、「生徒がわかった・できたと実感できる授業」「生徒が楽しいと感じる授業」を実現するための手立てだと思えます。一方で、生徒・保護者の願いは、「わかる・楽しい授業」の実現です。今回のずれは、教職員側の努力・工夫が、「わかる・楽しい授業」の実現には至っていないことの表れのように感じます。(厳しい評価ですが…)今後も、生徒

一人一人の実態を把握する中で、どの生徒にも学習内容を着実に定着させ、学習に対する興味・関心・意欲を高めていけるような授業を実現していくことが大切だと思います。

さらに、家庭学習については、その目的を保護者と共有することが必要です。学年始めの部会の中で、学校の方針を保護者に説明し、理解していただくことが大切だと思います。

(3) 生徒指導に関わって

「登山活動や自然を守る活動に積極的に参加する」ことが芦安小中学校に転入学する要件のひとつとしています。しかし、実際には、集団生活になじめない生徒や特別な配慮が必要な生徒も在籍しています。(他校にも、そのような生徒は複数人在籍しています。)ですから、そのような生徒がいることを前提に指導・支援していくことが大切です。どんな生徒にでもわかる指導・支援(ユニバーサルデザインの指導・支援)を心がけていきましょう。

また、生徒の中には、「きまりや約束が守れていない」意識を持っている生徒がいます。また、「しっかりやっている人のレベルに合わせてもらいたい」という意見もあります。「まじめにやっている生徒が損をしないような指導・声掛け」に学校全体で取り組んでいきましょう。一方で、教師側の思い込みではなく、自己肯定感を高める指導(見守り・共感)を望む声もあります。改めて、組織として、指導方針等を共有しておくことが大切だと感じています。

(4) 保護者・地域との連携 & (5) 学校の特色ある取組に関わって

地域との連携は、芦安小中学校の教育活動の強みです。今後もこの強みを生かして、取組を進めていきましょう。学校農園を活用した取組では、小学校教頭先生のアイデアにより、学校農園ボランティアを組織しているところです。

生徒や学校の情報発信・収集については、引き続き、学校だよりや学年通信、HP、安心メール等の活用を進めていきたいと思っています。保護者とは生徒送迎の機会を活用することも効果的です。生徒の成長に関わる指導(「こういう指導や声掛けをしたら、このように成長しました」)を伝えられるとよいですね。

小規模校だからできる取組・地域連携の取組を推進することが、芦安中の魅力を高めていくことにつながると考えています。

3 今後の学校運営における改善点

教職員自己評価においては、生徒に寄り添った指導・声掛け、基礎基本の定着、ICTの活用等については肯定的な評価が多かった。一方で、学習指導(家庭学習も含め)、組織的な対応、危機管理、保護者との連携等については、今後の課題としたい。

(1) 「わかる・できる“実感のある”授業」の実現

・生徒一人一人の実態を把握する中で、どの生徒にも学習内容を着実に定着させ、学習に対する興味・関心・意欲を高めていけるような授業を実現する。

・「個別最適な学習」「協働的な学習」「ICTの活用」等、学習形態や方法のみにこだわることな

く、生徒のよさや成長を生徒ともに実感・共有できる学習を推進する。

(2) 生徒理解を深めるための組織的な取組

- ・児童生徒への学習支援・生徒指導等に関する情報を共有し、指導・支援に生かす。
- ・三者懇談等の機会にも活用し、保護者とも情報を共有する。
- ・全校道徳、全校給食、自然体験活動、ローテーション朝の会等を行い、生徒理解に組織的に取り組む。

(3) 登山学習の充実

- ・北岳、鳳凰山に加えて、来年度は仙丈岳への登山活動を計画。
- ・3年間を通した登山学習計画を作成し、生徒の学習に対する関心を高める。
※文化財課・芦安FC等と連携

(4) 小中合同太鼓の見直し

- ・太鼓講師とともに小中教員も指導に加わる。(教職員対象の事前研修会の実施)
- ・太鼓講師とも練習計画・練習方法を共有する。

(5) 9年間(小中一貫)を見通した「ソーシャルスキルトレーニング」の実施

- ・少人数集団の中での人間関係づくりを推進するための取組の実施
- ・合同校内研究会で素案を作成・実践・検証する。